

# スイスアルプス山行報告

憧れのマッターホルンをこの目で見たい！登りたいと思って計画したスイス旅行。今回は登れませんでした。今後スイスに行く方の参考になれば幸いです。

期間 2012年8月18日(土)～26日(日)

山域 スイス、ヴァリス山群(リッフェルホルン、ブライトホルン、アラリンホルン)

形態 岩登り、縦走

## 準備編

本格的に準備を始めたのはGWあたりから。主なツアーは、9日間か10日間で1人参加だと60～70万円位、ここに食事代などが加わる。ほとんどが予備日を確保するため3日目にテスト山行が予定されていた。体調面での不安、岩登りトレもしたいし、途中で小嶋さんとの合流も考えていたので、個人旅行にして現地代理店(ActiveMountain社)にガイドの予約と滞在中のアシスタントをお願いした。

【参考】 マッターホルン(自分とガイドの山小屋代込) CHF1,590

リッフェルホルン 667

ブライトホルンハーフトラバース 770

アシスタントフィー 300

差額返金 ▲485

合計 CHF2,842

※各ガイド手配料を含む (支払い時 CHF1=約80円)

直接アルパインセンターへ申し込んだり、グループ登山にすればもっと安くなる。

高所順応のために富士登山1回(7月)。普段の山行で高山病になったことがない(気がつかない)ので、大丈夫だろうと考えていたら甘かった。

また、サンカルや古賀志などでは楽な姿勢で登れるよう心がけたり、休日はなるべく山へ行くようにしたが、体力(心肺機能)がまだまだで、高所順応と合わせて今後の課題である。



【ツェルマット】

### 8月18日(土)

スイス航空直行便で約12時間のフライト。16時チューリッヒ着。手続きもスムーズで16時30分発の電車に乗りツェルマットへ。20時着。

宿は駅前のホテル・バンホフ。共同キッチンやら洗濯機などが完備されているし、近くにはCOOPがあるので便利。いろいろな人がいておしゃべりして楽しかった。

### 8月19日(日)

高度順化をかねてクラインマッターホルンを目指す。ゴンドラとロープウェイを乗り継いで約40分、一気に3800mまで上がると白銀の世界。はるか遠くまで続く稜線。まるで別世界！来て良かった～

しかし周囲を歩いてみたが・・・なんだか体が重い。そしてすぐに息切れ。もしやこれが高度障害？その後シュバルツゼーからヘルンリ小屋の途中まで歩いたが、やっぱり同じように自分の体じゃない感じがした。天気が良くって思っていた以上に暑く、まだ時差ボケもあり、素晴らしい景色とは裏腹に明日からの山行が不安になってきた。



夕方は代理店の方と装備品・予定の確認。

8月20日(月) Riffelhorn 2928m

8:10 ロートホルン鉄道の駅で待ち合わせ。ガイドは Mr.Herbert、少し日本語を話せる陽気な男性で3日間お世話になった。ローテンボーデン駅で下車すると目の前に逆さマッターホルン♪今日も快晴で気持ちがいい。湖の左に今日登るリッフェルホルンがあり、クライミングエリアは裏側なので左から巻いて行く。



登ったのは F のルート(最後は右の4級へ)

リングボルトに確保器をかけロープを固定。ガイド側のロープをイタリアン・ヒッチでビレイした。登山靴で登るのはちょっと不安だったが、意外と小さなステップもスラブっぽい岩にも乗れ大丈夫だった。(簡単なルートだったし)ギアを回収しながら登りきると、また別の確保器をセットして次の準備。必要最小限というか、安全に早く登るのが大切なんだな～と感じた。途中からコンテで頂上へ。近づきすぎるとロープを踏みそうになり、慣れるまで距離感が難しかった。

マッターホルンの頂上近くは固定ロープを使って登るのだが、この岩場にも固定ロープがあり、ローダウンで下ろしてもらい登る練習をした。ガイドは鉄の杭にロープを2巻きしてビレイしていた。両手でつかんで登れと言われたが、ほぼ垂直だし力任せに登ったら腕がパンプしてしまいそうだ。

軽く休憩して下山。今度は私が先頭でガイドは確保しながら下りてくる。どこからでも下りられそう、ちょっと迷うと指示してくれるが、ちゃんとルートを読めるようにしなければと思った。12時前には駅に戻り解散。岩は問題なしとのことで一安心。

景色も最高でとっても楽しめた♪



8月21日(火) Breithorn 4164m

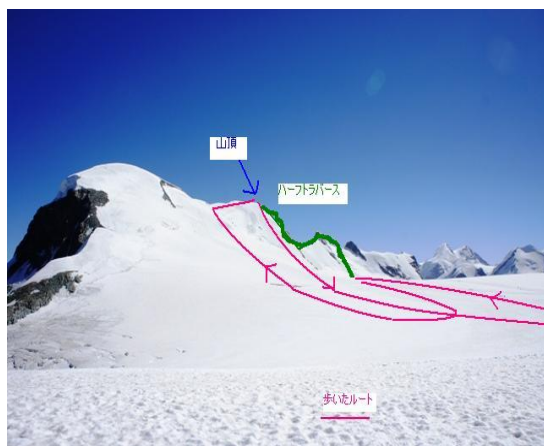
6:40 ゴンドラ乗り場で待ち合わせ。19日と同じラインマッターホルンを目指す。早朝はスキヤーと登山客でかなり混雑している。今日はテストなので朝から緊張。

装備はピッケル・ストック・ハーネス・アイゼンで、ヘルメットはなくてもいいと言われた。ちなみに今回のスイスではオーバージャケット・オーバートラバースの出番はなかった。

ブライトホルンの稜線は東西に伸びていて、一番高い西峰がノーマルルートから目指す山頂で、今日のハーフトラバースルートは中央峰と東峰の鞍部から稜線に上がり山頂を目指す。

スタートは8時頃。イタリア側のプラトー(雪原)をコンテで歩く。今日はかなり速い。少しでもスピードが落ちるとぐいぐい引っ張られる。走らないと着いていけなくて、息があがり辛かったが必死で走った。取り付きにきた地点でノーマルルートに変えと言われた。

まだ高度障害があったのかは分からないが、私のスピードではマッターホルンが厳しいのは明白。だめもとで、せめてこのルートを登りたいとお願いしてみたが悩んだ末に“NO”。悩ませて申し訳なかった。戻る途中すれ違った日本人ガイドさんが「いいスピードで登ってたのに残念だね」と慰めてくれた。その言葉に救われた。



左:歩いたルート(イタリア側)



右:ギザギザの部分がハーフトラバース(スイス側から見たブライトホルン)

気を取り直し、アイゼンを装着してなだらかな斜面を登る。ここが山頂！という目印はなく長居できる場所でもないの、写真をとったらすぐ下山。12時頃戻って解散。

ノーマルルートは標高差300m。登り1.5～2時間。下り1時間前後かと思う。

天気が良ければ1人でも登れそうだし、登っている人もいたが、途中クレバスがあるので誰かとロープをつないで登るのがマナーのようだ。

ここで私の挑戦は終わってしまった。自分のあまりのダメっぷりに落ち込んだが、これが今の実力。自分の目を見たこと、感じたこと、体験したことは良い経験となったし、これを次へのステップとしたい。

夜は小嶋さんたちと合流。もう飲むしかない！（笑）

#### 8月22日(水)

今日は1日のんびり。まずスネガへ。ケーブルカーで3分と近いし、ここから見るマッターホルンが一番美しいとも言われている。

ツェルマットへ戻り再び合流、ベルギーへ旅立つ二人を見送った。ちょっとさみしい……

午後は博物館へ行ったり街を散策。テラスではみなビールやワインを飲んで楽しんでいる。

山々を眺めながらのワイン、最高の贅沢だ♪

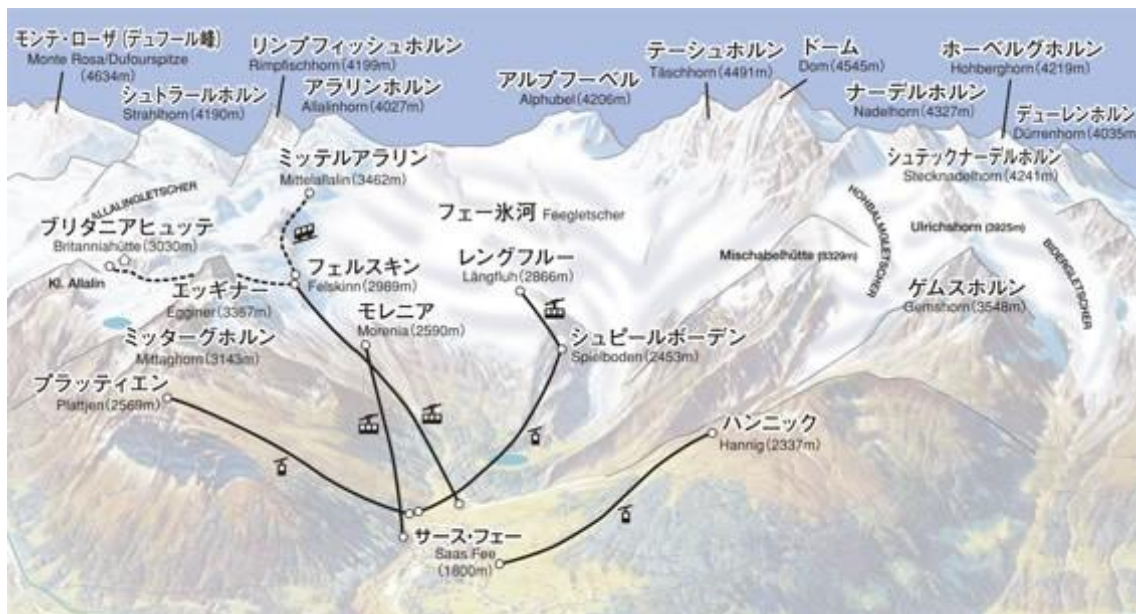


#### 8月22日(木) Allalinhorn 4027m

予定がぼっかり空いてしまったが、せっかくスイスに来たので別の山に登ることにした。代理店の方が調整してくれてアラリンホルンに決定。

6:30 駐車場で待ち合わせ。これからサースフェーという街へ。ツェルマツ同様ガソリン車の乗り入れは禁止されており、町外れの駐車場に停めなければならない。信号が1つもなく、交差点はロータリー方式でぐるぐる回りながら約1時間で到着。

### 【サースフェー】



ゴンドラとケーブルカーでミッテルアラリンへ。山頂はまるいお椀型、ツェルマツから見ると綺麗な三角形をしている。装備はストック・ハーネス・アイゼンと言われたが、前日ホテルのスキールームでストックがなくなってしまった。(要注意)代わりにピッケルを使用したが無問題なし。

今日はガイドの Herbert もゆっくり歩いてくれて、息切れすることもなく楽に登れた。ブライトホルンでがんばった分順化できたのかも。標高差は約500m、ゆっくり歩いて登り2時間、下り1時間15分。

ここも易しいルートであるが、大きなクレバスがいくつかあったので視界が悪くなったら怖いなと感じた。天気予報は下り坂、午前中は晴れていたが車で帰る途中スコールが・・・お昼頃には

雪もグサグサだし早めの下山が鉄則だ。



## 8月24日(金)

今日は予報どおり曇り空。時折小雨が降るあいにくの天気だ。

1つ心に引かかっていたのがヘルンリ小屋と取り付きまで行ってないこと。もう一度行ってみよう。

代理店の方いわく、マッターホルンを登るならシュバルツゼーから小屋まで2時間以内に登る体力が必要。私達は1時間半で登ると。

19日に来た時は息切れするしきつかったが、今日は体の重さも取れて楽に登れる。こんなに違うものなのか？調子がでたところで明日は帰国。残念・・・一応1時間45分で登れたのでよしとしよう。

同じホテルに滞在してる男性2人が登っているはずだが、山頂は雲の中。どんな感じなのだろう。

無事登頂したお2人と夕食をご一緒させてもらった。スイス料理、ワイン、山の話で最後の晚餐。雲の中は雨と雪で厳しい1日だったようだ。まるでトレランのようだったとも話していて、男性でもそんなスピードなのだから私はもっとトレーニングが必要だなと痛感した。そしてまたチャレンジしようと心に誓った夜だった。



## 8月25日(土)－26日(日)

ツェルマット～チューリッヒ～成田へ。

## **最後に**

今回、天候と素晴らしいガイドに恵まれたにもかかわらず、チャレンジすらできなかったのは、自分の準備不足と甘い考えからであった。特に体力が一番不安だったが、思ったほどトレーニングできていなかったと思う。また、高所順応など体調面を整えておくことも登山の一部だと再確認した。

全ては基本から。ランニング等取り入れた体カトレーニング、ロープワーク、クライミング、読図や雪訓などなど日々出来ることはたくさんある。もちろん鬼の形相ではなくて、心に余裕を持ち全てのトレーニングや山行を楽しんでいきたいと思いますので、今後ともよろしく願います。

溪嶺会の皆さまにはたくさんのアドバイスと励ましをいただきました。またサンカルや外岩でもお付き合いいただき、本当にありがとうございました。

夢を持ち続ければチャンスはやって来ると思うので、またチャレンジします！

そしていつか、みんなで海外合宿しましょう♪♪